

<プログラム>



第17回定期演奏会

1983.6.27（月） 6:30 PM

岩手県民会館中ホール

ピアノ 石川勲子 / 月井盛樹  
 友情出演 尾形利夫 (コールM)  
 朗読 大川典子 (福岡中)

- [1] 混声合唱組曲 こどもたちのうた・おかあさん  
 中田喜直 作曲  
 1. あさ 石川保登 作詩  
 2. あのねえ先生 どいはらかずこ 作詩  
 3. しけん 吉本昌子 作詩  
 4. しりたねん 谷口のり子 作詩  
 5. わからへん あかぎかずお 作詩  
 6. わらいかた 鎌近ちかこ 作詩  
 7. いのちというものは ほりえあきお 作詩  
 8. パーマネント 安井光夫 作詩  
 9. すきやき みなみたきこ 作詩  
 10. ねるとき 瀬尾和子 作詩
- [2] 芥川也寸志作品  
 “NHK 音楽の広場・うたのたび”より  
 1. ここは瀬戸内 中村千栄子 作詩  
 2. 南の旅へ 岩谷時子 作詩  
 3. 雛の春 高田敏子 作詩  
 4. 海濱獨唱 室生犀星 作詩
- [3] 伊藤正利作品  
 1. 栗の木 森荘巳池 作詩  
 2. 旗を振る 宮静枝 作詩  
 3. 菜の花こんにちわ 宮静枝 作詩
- [4] 懐かしいポピュラーソング 月井盛樹 編曲  
 1. 雨に歩けば  
 2. 詩人が死んだ時  
 3. ケセラセラ  
 4. タミイ  
 5. アマポーラ

<団員名簿・出演者名簿>

<指揮者・ピアニスト・役員>

常任指揮者	千石牛	葉川越	了道	道子恂
ピアノ伴奏者				
委員長				
副委員長				
会計				
パトリージャー				
	Sop.			
	Alt.			
	Ten.			
	Bas.			

< Sop. >									
井金	上矢	宮妙	子子	子子	太駒	田木	和美	和子	子子
咲山	山山	妙山	子子	子子	佐々	木木	和和	子子	子子
高中	館村	千枝	子子	子子	田中	井井	育育	子子	子子
中吉	村田	静里	子子	子子	藤井		明	子	子
< Alt. >									
伊鎌	藤澤	尚光	子子	子子	小龜	原森	光幸	子子	子子
川川	村慈	富喜	子子	子子	菊菊	池江	敏敏	子子	子子
久千	泥和	世公	子子	子子	寒八	河重	怜悦	子子	子子
大		光	子	子	吉	櫻嶋	裕	子	子
< Ten. >									
菊福	池田	康清			佐藤	々々	木村	壮雄	一治
< Bas. >									
牛齋	越藤	恂宏			金佐		豊太郎		
照照	井隆	隆一			藤		洸		
< 休団者不記載 >									

<主な活動> 昭和58年 1983年  
 春 千葉了道先生入院。牛越恂先生指揮代行  
 11/24(木) 千葉先生功績賞受賞と退院祝い

## ごあいさつ

皆様ようこそ北声会第17回定期演奏会にお越し下さいました。団員一同心から感謝申し上げます。

今回の定演は、企画後、練習が軌道に乗った三月末、常任指揮者の千葉了道先生が病気のため入院なされ、演奏会の延期、中止等も考えましたが、気を取り直し、演奏曲の全面的変更等で、予定通りの定演の日に発表しようと頑張っ  
てまいりました。しかしピアノをお願いしていた伴奏者が、五月に病氣入院という重わたりのアクシデントがあり、本当に途方にくれました。しかし、幸い石川勲子さん、月井盛樹先生の特別のご好意と、旧団員の尾形、石川両氏の友情で、また団員一人一人の情熱で、本日の演奏会をむかえることができました。

今回の演奏会は理屈ぬきで楽しめる曲をと考え、右の様なプログラムにしました。しかし理屈ぬきで楽しめる曲というのは、それなりの音楽性と、洒落た感性が必要であり、私共北声会のカラーである。「パーッ」としないカラーに合わない面もあるやと、大いに努力をいたしました。成果はどうでしょうか。

また、北声会のモットーである、「地元根ざした活動」という主旨から、森莊己池氏、宮静枝さんの詩に作曲した、種市町城内小学校教頭の伊藤正利先生の曲を演奏いたします。伊藤先生の地道な作曲の勉強には私共本当に頭が下がり、私共の活動の励みにもなります。

本日は常任指揮者不在の演奏会で皆様には本当に失礼かと思いますが、私共一生懸命頑張りますので、ご寛容の程、お願い申し上げます。また本日の演奏会に、特別な好意と友情で協力していただきました石川勲子さん、月井盛樹先生、石川稔先生、尾形利夫さん、大泉典子さんに、心から感謝申し上げ、ごあいさついたします。

合唱、	北声会合唱団
ピアノ、	石川勲子、月井盛樹
朗読、	大泉典子
友情出演	尾形利夫（コール、M） 石川 稔（福岡中学校）

## 学芸余聞

（心拍を落し、演奏会を盛り上げた北声会合唱団）

ビュースタッフから「四丁半行は」「時人が死んだ時」などパロディに富んだプログラムで、心拍を落し、演奏会となった。

定期演奏会では、宮主で



○「北声会合唱団（年越徳氏指揮）の第十七回定期演奏会がこのほど、福岡市内丸の国民会館中ホールで開かれた。同合唱団は、常任指揮者の千葉了道氏が病氣入院のため、今回の演奏会の延期、中止も考えたとしたが、曲目の変更などで予定通りこの日の演奏会となった。

この日は「混声合唱組曲」が中心だった。おかし

根ざした合唱団、というところで福岡、千葉氏の作品を取り上げていたが、今回、千葉氏病気のため、お蔭でさんにあたる伊藤正利氏（九戸郡種市町城内小学校）が作曲した「栗の木」（詩・森莊己池氏）、「歌を聴く」（詩・宮静枝）「粟の花」（にちわ）（同）の県内作家の作品を演奏、約四百人の聴衆から盛んな拍手を浴びていた。